

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：姫宮町自治会

開催場所：かなや会館

開催日時：平成 28 年 11 月 4 日（金）19 時 03 分～20 時 40 分

参加者：自治会側【地域住民の方 12 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、眞部危機管理部長、森田病院事務部長、浅田金谷南・北地域総合課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、清水金谷南地域総合課係長】

内 容

① 山城自治会長あいさつ

- ・姫宮は 4 つの地区から成り立っている。世帯数が少ない上に、高齢化が進んでいる。
- ・牧之原の丘陵の傾斜地の地すべりなどに指定されている。これは非常に辛いこと。
- ・これから開発して夢がもてるところでもないことは確か。しかし、駅にも近く、金谷の顔ではないかを感じているところ。
- ・安心して暮らしていくことができる地域にしていかななくてはならない。
- ・今日は市長が語る会ではなくて、市長と語る会であるので、住民の声を伝えていただいて、姫宮にとってもプラスになるように有意義な時間にしていただければと思っている。
- ・11 月 13 日にかなや会館で姫宮 4 町内の 4 隣ピックを行うので参加していただきたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるといことで実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでもまわっている。

■姫宮町自治会の人口、世帯について

・姫宮町自治会の10月31日現在の世帯数は207世帯、人口は527人で、高齢者人口（65歳以上）は213人、高齢化率は40.4%となっている。市の平均が29.5%、よその地域よりも年齢の高い方が多い。15歳以下の人口は50人で人口に占める割合は9.5%となっている。市の平均は13.7%なので、高齢化が進んでいて若い人が少ない地域である。昔からの中心市街地であって、古くからお住まいの方々が多い地域であると思う。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・4～5年前と行政のおかれている状況が違う。水の流れでいえばまさに分水嶺をぬけた、流れが変わったと実感している。
- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。地方自治体では、まち・ひと・しごと地方創生総合戦略を策定して、都会から若い人を呼び戻して、子育て環境を整備するなどの施策に取り組んでいる。
- ・しかし、日本全体の人口のパイは、これから30年程度は増えることはない。減り続けるだろう。
- ・そういう時代にあって、企業誘致による雇用の創出や、子育て施策の充実を図ることによって人口増対策をしつつ、人口減少に対応した行政経営をしていく必要があることも事実である。
- ・かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代だと、人生設計（老後についても）ができた時代であった。
- ・明日は今日より良くなるといった（高度成長期）と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、優良企業であっても業績が不振となったり、非正規雇用の若者が増え、さらに結婚したくてもできない、子どもを産みたくても産めないといった人が増える日本の社会は、我々が若い頃の夢を描いていた時代と違う時代になってきている。
- ・行政も人口も緩やかに減り続ける中、高齢者が増えるということに対応するため、子育て施策をはじめ、医療、介護、教育などの施策により、市民の皆様が安心して住み続けられるようにすることが行政の基本ベースにあると考えている。
- ・一方で、2030年くらいには、働いて税金を払ってくれる人の数が減っていく。（人口の約半数になると推計されている。）
- ・かつて、税収増が見込めた時代には、市が借金しても、次の世代の人たちが返していけるという、世代間の分配の中で都市経営が行われてきた。
- ・このような都市経営を続けていたら若い人に選ばれなくなる。それは、若い人も島田に住んでやりたいこと（自分たちの政策を形にすること）があると思う。自分たちの時代のことは自分たちで何とかしようという考え方を持たないと、持続可能な都市経営はできない。これは一般論として御理解いただけると思う。
- ・日本の国の借金が国民一人当たり860万円程度あると言われていの中で、どの地方自治体も借金がよくある。
- ・昭和40～50年代にかけて、道水路の都市基盤整備や公共施設の整備が行われたが、いっぺんに造ったので、当然、いっぺんに寿命もくる。この寿命を平均化しなければ大変なことになるという課題がある。9月の広報しまだの市政羅針盤にも書いたが、公共施設は276施設663棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの40年間で2,515億円かかる。年間63億円にもなる。今は維持管理・更新に年間36億円かけているので、その1.75倍とな

る。このことから、施設のあり方や経費の平準化も検討をしていかななくてはならない。・投資できる金額との整合性を図るためには、今後 40 年間に公共施設の約 21%を削減しなければならないというデータが出ている。

・今、市民病院の建設に向けて取り組んでいるが、市役所の庁舎も築 53 年であるが、耐震性があるので使っていきながら、順序だてて公共施設を更新していかなければならない。

・市民会館についても、現在、解体は終了して更地になっている。県内でも早く建設され、音響設備など立派な建物であった。私たちの誇りでもあった。早くできた分、老朽化も早く耐震性もないことから、今回解体するということに決めた。(年間のホールの稼働日数は 30 日、リハーサルも入れても 60 日程度となっている。)

・これに対して、同じものをつくるとなると、70~80 億円という事業費になることから、病院建設をまず優先して行うことを選択した。

・今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民の憩いの場やイベントの場として活用してもらえるように考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。

・病院に目途が立った段階で、市民会館と市役所(築 53 年)、おおるり(築 34 年)、建設検討委員会を立ち上げて(病院の設計に目途がたった段階で立ち上げていきたい。)、周辺を一体とした整備について検討する。

・こうしたことは島田だけではない。こうしたことに早く気づいて、早く手を打ったところが選ばれるまちとなっていく。

・市民の皆様には現実をお知らせして、10 年後の島田はこうありたいということをお示ししながらロードマップを作っていく。こうした作業をしっかりと行っていくことが今の行政の役割だと思っている。

・一般論として、右肩上がりの時代は、市長は自分の任期で何をやるかということが、例えば市長がやったこと、市長は何を造った、市長はこの道を造ったなどというように。しかし、これからの時代の市長は、10 年先の島田のために、今何を選択するかという、そういうことが今の市長の役割だと思っている。自分のときだけいいのではない。そこのところは完全に、時代が変わったと私は思っているので、10 年先にここに暮らす人たちが豊かに暮らせる社会をつくるために、今自分は何を判断するかということが自分の仕事だと思っている。

・このため、お金はないわけではなく、賢く使っていくことが大切であると考えている。

・島田の自治体は、それぞれの町内の自治が集って姫宮自治会自治になり、68 の自治会が集って島田の自治体になっている。35 の自治体が集って県になっている。

・なんでも行政にお任せは難しいということをはっきり申し上げなければならない。

・姫宮の課題を解決するために、地域と行政が一緒になって取り組んで解決していきたい。

・地域の課題を地域で解決していただくために取り組みが市内でも見受けられる。

・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500 円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ 500 円でも収入になる。(道悦島の事例)

- ・蛍光灯の取替えや重いものを持っていないなど、生活で困っている方を地域で助け合うサービスの取り組み。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。隣接地域の小学校の放課後児童クラブに児童を送迎することを地域住民が行っている事例もある。(湯日の事例)
- ・コミバスが地域に走っていない地域においては、市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことも計画している地域もある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。
- ・それぞれの地域がそれぞれの地域の課題を解決するための取り組みがされている。こうした地域づくりができるかということがこれからにかかっていると思っている。行政も一緒にやるが行政にあれやってくれこれやってくれとなってしまうと順番が来るまでに時間がかかる。地域の方と一緒に動けば、それだけ早く課題も解決できると考えている。
- ・こうした取り組みは、島田市の10万人規模であればできる。姫宮町自治会には人と人との強い結びつきがある。こうした地域であればいろいろな助け合いができると考えているので、具体的な取り組みについて地域の皆さんが考えてくれたらありがたい。

■賑わい交流拠点の整備について

- ・合併して10年、何も金谷にいいことはないといわれてきたが、市内でも金谷地域はこれから一番変わる地域であると考えている。集中的に投資を計画している。(合併したスケールメリットが活かせる地域であると考えている。そう思っただけのように取り組んでいきたい。)
- ・NEXCO中日本、大井川鐵道、JA大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷IC周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。
- また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。(今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。)
- ・国一バイパスの4車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になるとJA大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JAの視点の交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・国道473号を跨ぐかたちで整備し、間を陸橋のようなものでつなぐことも計画にある。
- ・最短で平成30年5～6月に着工できる計画で頑張っている。平成31年の春頃にはオープンできる見込み。
- ・首都圏からの観光バスの往復500kmの位置として、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺のこの地域にも交流人口の増加につながる導線を考えていきたい。(川根温泉では観光バスが激減している。)

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84haを内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対

応という課題があるため、国県との協議に取り組んでいる。

- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。(20社ほどの引き合いもある。)

■金中跡地の開発について

- ・かつては、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から8年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費(補助金)をもらって整備をしてきている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。
- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催し、11月末には旧金中跡地に係る基本計画がお示しできるのではないかと考えている。
- ・今、マーケットサウンディング(ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想(風の郷)として指定されている地域ということも勘案して提案すること。)を行った。
- ・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8年前の計画(約束=底地は市が用意してウツ物は県が建てる)が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていきたいと考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えている。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。

■お茶の郷について

- ・お茶の郷は今年の6月1日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点に加え、県知事は、花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春(仮称)ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有しても全国的にも例を見ない、お茶の専門の博物館ということであるので市も連携を図っていきたい。
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の薬能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。

■牧之原公園の整備について

- ・工事期間は11月1日から2月28日までとなっている。(公園内に工事の看板が掲示されている。)
- ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を含めて今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。
- ・このように公園全体を一体整備することは減多にない。これは、牧之原公園が夜景100選ということに加え、お茶の郷(6月から県へ移管)、旧金中跡地と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。

■その他金谷地域への取り組み

- ・国道1号バイパスの4車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて国に要望をしている。
- ・御前崎港⇒菊川IC⇒大代IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるといことで国への要望を積極的に行っている。
- ・4車線化に伴い、大代ICのランプも大きくすることによってJAの移転も必要となったことにより賑わい交流拠点の構想にもつながってきている。
- ・藤枝バイパスの4車線化についても、島田バイパスの4車線化に伴って、その先の道路の整備によって円滑に車両が通行できるよう国への要望を行っているところである。
- ・焼津森線と島竹下線の交差点の改良も実施していく。
- ・こうした取り組みができるのは、牛尾山の開削ができたということが要因の一つ。地元の皆様に60年もかけて要望をしていただいて29年度で事業が終了する。これにより洪水の危険性が大きく減ったということになる。
- ・国もその道ができたならどれだけの効果があるかということデータを示すように指示をしてくる時代になった。ただ単に造ってくださいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。(ストック効果を示していく必要がある。)結果も求められている。
- ・国も県も道路などを造る予算は15年位前に比べ約3分の1程度しか確保できなくなってきた。今までは、新設の道路を造ってまちを拡大していったが、これからはそういった道路などをどれだけ長持ちさせるかという長寿命化に経費を配分しなければならない。(平成12年頃には道路関連の国の予算は約16兆円。今は5.2~5.3兆円。)新規の道路整備も計画年度以降に後回しになるようなこともおきている。
- ・島田市の道路延長は約1,180km、橋は1,154橋で、5年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持(長寿命化)していくことがメインとなっている。新たな道路をつくるよりも長寿命化する時代となっている。
- ・こうした取り組みによって島田市が大きく変わっていくことを見せていける場所が金谷地域であると考えている。

■消防の広域化について

- ・この4月に島田市消防本部から静岡市消防本部になった。これは、静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町の3市2町が広域で消防本部を一つにした。広域消防の119番を受け入れる指令所は一つで、消防隊員が1,000人規模の消防署になった。車両等の装備が最新のものになる。ドクターヘリ等今までなかった機器も使えるようになる。特殊な化学薬品によるテロ、爆発などにも特殊訓練を受けた消防署員を派遣することができるようになった。
- ・島田の消防本部は従来からの隊員で編成されており地元のことは熟知している。広域消防は市民の皆様により安心・安全を実感していただけたらと思う。

■市民の安心・安全への取り組みについて

- ・市民病院の建設もその一つであるが、今朝の新聞にも掲載されていたように、最新の医療機器(ダヴィンチXi)を配備した。志太榛原地域でははじめて

である。

- ・市の組織においても、危機管理部、危機管理課という1部1課の体制で、現実には起こりうる災害にいち早く対応するための体制を整備している。
- ・公息の避難計画もいち早く作成した。また、各地域の災害に対する不安についても実際に地元に入り、地域の課題や危険性をお話し、その地域ごとの防災計画、避難計画の作成のお手伝いもさせていただいている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■大規模地震への対応について</p> <p>地震の際、傷病者が金谷地区にも多く出るだろうと考えられるが、金谷に住んでおられない医師も多く、交通が遮断された場合、どこで誰がトリアージもしくは治療をするのか、人材や場所のイメージがない。</p> <p>金谷地区は災害拠点病院も遠く、トリアージの赤、黄に関しても搬送できないのではないかと心配している。早期に、有事にどのような医療チームが組めるのか、問題点は何かを話し合っておく必要があると思う。医師会が島田と金谷が違うことも疑問である。</p>	<p>●大規模地震が発生した際には、金谷地区については金谷小学校に救護所が設置される。救護所は市内に6か所設置する。（一中、はなみずき、六合、初倉、金谷、川根）救護所には必ず医師がいて、看護師が入れ体制を整備するために6か所としている。先日も訓練を行ったが、こうした中で課題を見つけ解決していく取り組みを続けている。重傷者を搬送できないこともあるかと思うがそういった場合には、防災無線で行政とのやり取りをしていくことも考えられるが、被害の状況によっては皆様のお力添えが必要であると考えている。こうしたシビアな場面も想定して地域の減災計画を立てていく必要がある。</p> <p>南海トラフ型の大規模地震の場合、島田は7日間孤立するといわれている。7日間の備蓄をお願いしたい。また、金谷小学校に行けない場合には、このかなや会館がある。耐震性は1Bで十分使える場所である。</p> <p>避難所は市内39か所を指定している。避難所には備蓄品等を集中的に配備し定期的に更新している。二次避難所的な場所は市内にあるが、大規模災害の時には、プッシュ式の支援ということで、島田はローズアリーナに物資が届くが、その物資を市が届けていく。避難所にいなければ物資が届かないわけではない。</p> <p>大雨の時の避難については、近くの安全な場所のほうがいい。医師会の課題は十分に承知をしているが、金谷地域は、行政区を跨いで榛原医師会に属している。医師も高齢化が進んでいる中、後継者への行政の支援も検</p>

		<p>討しなくてはならない。なお、医師会を一つにすることは私の力（行政）には難しいと思う。</p>
2	<p>■安定ヨウ素剤の配布について</p> <p>今までの課長とは壁があったが、眞部部長が来てくれて死ぬまで防災委員長をやる覚悟。現場を知っていて、すぐ動いてくれる。今までの壁が断ち切れた。</p> <p>この地域は浜岡原発から31km圏内に入っており、安定ヨウ素剤の配布についてどのように考えているか。（先日にも報道があったが。）</p>	<p>●1年半かけて彼（部長）を招聘した。</p> <p>安定ヨウ素剤については、5km圏内は国の方針で配るということになっている。島田市は全人口分を備蓄している。事前配布については検討が必要。直径2,3mmの薬であり管理が皆さんできるかという懸念と、薬にも期限があるし、医師の指示も必要ということを考えていると難しい。市では警戒情報が出た段階で配ることを考えておりその方法も検討している。</p> <p>もし、市民の皆さんが事前に配布して欲しいというお声が大半であれば、それもやぶさかではないが、その場合には全人口の2倍の量の薬を用意する。しかし、事故が起こった後に配布できる時間はあると考えている。その方が確実性が高いと考えている。</p>
3-1	<p>■かなや会館の避難所の指定について</p> <p>姫宮自治会（新町、坂町、城山町、金山町）は、金谷小学校を避難所として指定され、当地区からも金谷小学校避難所運営会議として数名がその任にあたっている。</p> <p>当地域は、丘陵中腹の傾斜地域が多く、避難地の金谷小学校への移動困難が想定される。そのようなことから坂町及び自治会として「金谷会館（新町）」を1次的避難場所として活用したいと検討を重ねている。若干の備蓄食品や防災用具等も備えての1次的機能をし得る場としての位置付け検討を頂きたい。</p> <p>※「金谷小学校避難所運営委員会」との協議も必要となる。</p>	<p>●ここ（かなや会館）を災害の拠点とすることは皆様の判断によること。地元で備蓄を用意することも構わないと思う。</p> <p>市内39箇所の第一次指定避難所の備蓄品の整備を着実に進めることを優先する必要があることから、備蓄品の配備については御理解をいただきたい。</p> <p>ここは地すべり地帯なので多くの方が避難されることが想定されるが、そうでない地域においては、自宅で避難をしていただくことが基本。島田市民10万人が避難できる場所はない。</p> <p>そのために、家具の転倒防止やガラスの飛散防止などの対策をお願いしている。</p>
3-2	<p>■そういう考えがあって、金谷小学校が避難所だと断言するのか。</p> <p>かなりの町内が対象になっている。</p>	<p>●今はそのように決めている。金谷小学校避難所の対象町内は21町となっている。</p>
3-3	<p>■収容できないといいながら、それだけの町内を対象にしている。</p>	<p>●どこの地域でも収容しきれない。</p>
3-4	<p>■多すぎないか。</p>	<p>●例えば東町（ひがしちょう）は4,500人の人口がいる。人員的には平均化し、地理的なことも考えながら決めている。</p>

3-5	<p>■金谷小学校避難所運営委員長となっている。21町でやっているが、それぞれの地域の事情等も考慮して、姫宮では金谷会館の機能をどの程度にしていくのかということを決めていく必要がある。また、かなや会館の鍵の貸し借りについて、南交流センターとの協議もできている。</p>	<p>●回答なし。</p>
4	<p>■大井川橋の耐震補強について 大正時代にできた橋であるので地震の時には落ちてしまうのではないか。</p>	<p>●市内で大井川に架かる橋が落ちる想定はしていない。耐震補強済みである。段差ができたりということはあるかと思うが、短い時間で通れるようになると考えている。金谷小学校避難所は、年6回以上の避難所運営会議を開催し、市内避難所で最も先進的に避難所運営マニュアルを整備している。こんなに活発な運営をしているところはない。</p>
5-1	<p>■避難所運営委員について 自治会長が避難所運営委員になっていることがおかしい。 自治会長は、地元の災害対応の陣頭指揮を執るべき。 市をあてにしていない。自治会で対応するしかない。</p>	<p>●自治会で率先して対応していただけるその意気込みはありがたいこと。 いきなり逃げて行っても、応急危険度判定士により体育館（避難所）が使えるかどうかの判断をした後に避難所として開設できる。</p>
5-2	<p>■今、（避難所運営会議の中でも）話題にしているところ。</p>	<p>●回答なし。</p>
6-1	<p>■国道1号のトンネルについて 災害時のトンネルの対応はできているのか。</p>	<p>●4車線化に伴い、トンネルの工事もしていく。</p>
6-2	<p>■車の流れが変わってきている。下り線も渋滞が発生する。 地盤が悪いからか。</p>	<p>●掛川市内がボトルネックになっている。 国土交通省が直轄で行うことなので、私がとやかく言えないが、掛川市長は事業着手を望んでいる。藤枝バイパスの4車線化の事業が決定している。</p>
7	<p>■牛尾山の開削について 大井川の流れが変わるといことか。牛尾山に水が当たって島田側に水が行くということを知った。</p>	<p>●島田側の神座の護岸を大規模な工事している。</p>
8-1	<p>■同報無線について 話し方が間延びしている。聞き取りにくいのでもう少し早くしゃべってほしい。</p>	<p>●他でもご指摘をいただいている。基本的には皆さんのお宅の機密性が高くなったことにより屋内にいると聞きにくいことがある。御意見をしっかり受け取っておく。</p>

8-2	<p>■金谷には戸別受信機がある。</p>	<p>●皆さんはそうかもしれないが、他のところはない。金谷だけ。</p> <p>緊急性の高い避難勧告等の情報は、エリアメールといって、その地域の携帯等に全て配信するようなサービスも行っている。</p> <p>緊急地震速報は何もしなくても携帯等に配信される。あらゆる方法で市民の皆様に情報提供をしている。</p>
8-3	<p>■緊急地震速報はほぼ地震と同時だと思う。鳥取でもそうだった。</p>	<p>●距離が短い場合にはそうかもしれない。電話により自動音声で聞くサービスもあるので、分からないことがあったら問い合わせをいただきたい。</p>
9	<p>■国道 473 号について</p> <p>説明のあったにぎわい交流拠点の上は全然観光バスが走っていない。県の管轄だと思うが。</p>	<p>●承知している。要望を国土交通省に続けている。ただし工事費がかかる箇所である。国の直轄事業は予算がつきやすい。県、市は幹線が優先されていると思う。</p>
10-1	<p>■自主防との連絡について</p> <p>自主防と行政との連絡のため、早急にトランシーバの配備をする。全ての組長、班長に渡すよう見積もりをとる。お願いしたい。</p>	<p>●無線は避難所に配備している。</p>
10-2	<p>■避難所運営会議の中でも、自主防と避難所または行政との連絡会議を開く必要があるということの認識はある。(災害時の連絡ということについて)</p>	<p>●職員の二人ないし三人が避難所に参集する体制を整えている。</p>
11-1	<p>■無電柱化について</p> <p>清水川周辺の道路幅員が狭く、電柱が倒れれば道路をふさいでしまう。災害時だけでなく、最近の横浜の事故も幅員が狭く、電柱でさらに狭くなっていたところだった。水道などを配管する時に同時にはできないのか。</p>	<p>●無電柱化は島田も進めている。大津通のところは平成30年春に工事が完了する。大きな災害があったときには、自衛隊の派遣基地を置くために、その経路として野田のインターから大井川の河川敷までを整備するもの。</p> <p>無電柱化の場合、ボックスを埋めてその中にケーブルなどを配管・配線していくため事業費がかかる工事であることも事実である。</p>
11-2	<p>■中国は整備が早かった。</p>	<p>●何も無いところであれば早いと思う。中国は個人で土地を持ってないため、基盤整備の進捗は早い。日本の場合には個人所有の土地等もあるのでそういうわけにはいかない。無電柱化は幹線道路から進めていきたい。</p>
12-1	<p>■浜岡原子力発電所について</p> <p>島田では、浜岡原子力発電所についてどのような考えを持っているか。</p>	<p>●浜岡の原発の再稼働は認めないという考え方をもっている。稼働してなくても使用済核燃料がある。また、防潮堤を造ったことがすべてではなく、福島原発事故の検証が終了していない。つまり、あの事故は、津波</p>

		<p>によって起こったものなのか、仮に津波がなくても、配管の破断などによって起こりうるのではないかという検証もされていない。また、発電所の下には活断層もあることや電力が現在賄うことができている状況において、再稼動することによって市民の命、財産を守れないと判断している。</p> <p>島田市は県内でも早く原発事故に係る避難計画を作成したが、10万人市民を逃がせるかという、県の計画には大変な矛盾がある。</p> <p>隣接市がはじめに逃げることとなっている。我先に逃げて、渋滞になって情報も混乱する。</p> <p>●島田市が危険な風向きは南寄りの風。年間で10%以下の比率。</p> <p>どの方向に逃げるかということについては、必ずその時に判断するが、その前に再稼動は認めないという方針を貫いている。</p> <p>島田市は県内でも早く原発事故に係る避難計画を作成したが、10万人市民を逃がせるかという、県の計画には大変な矛盾がある。</p> <p>隣接市がはじめに逃げることとなっている。我先に逃げて、渋滞になって情報も混乱する。そうした中で正確な情報を行政としてお伝えしていくが、使用済核燃料もある中では再稼動を認める訳にはいけない。</p>
12-2	■逃げる場所はあるのか。	●その時の季節や風向きにもよる。島田市が危険な風向きは南寄りの風。年間で10%以下の比率。西風であれば伊豆半島が危ないかもしれない。
12-3	■避難先で収容してくれるところはあるのか。	●原発が単独での事故、自然災害等による複合での事故、それぞれの避難計画ができている。
12-4	■誰が避難先まで運んでくれるのか。	●自分たちで逃げる方法と交通手段がない方はバスを用意してそれに乗っていただく。原発に事故で避難したときには、途中でスクリーニングを受け、安全である証明の札を下げないと避難所に入れない。被爆していれば除染するが、その水をタンクにためるなどの対策も必要。課題が多くある。
13-1	■お出かけバスについて	●バスの時間帯等については、来年には小規模な見直しをして、再来年に

	運行ルート、時刻などのスケジュールの検討をお願いしたい。	は、皆さんの利便性を高めるための見直しをしたい。見直しには陸運局への申請、許可が必要であるため、手続きの関係もあってすぐに見直しできないが、使い勝手のいいように少しずつでも更新していきたい。
13-2	■キロ数で運行ルートを決めていると城山あたりは範囲に入らないのかもしれないが、高齢化が進んでバスが必要になった時困ってしまう。	●キロ数で決めているわけではない。コミバスの経費は約2億4千万円。いろいろな御意見をいただいているが、福祉を目的で5億、6億円かけるか。乗っているお客さんも少ないのも事実。皆さんが乗ってくださるバスであればお金をかける価値はあると思う。今は2億円以上の経費を掛けても空気を運んでいるといわれている。どういふバスの運行形態が望ましいのかみんなで考えなければいけない。
13-3	■過疎化した地域では、乗用車をスマホで予約して、迎えに来るということに取り組んでいるところもある。バスもお客を前提として走ればいいが、とにかく走るから無駄があるような気がする。	●皆さんと話し合いをしながら、優先順序だとか、どうやったら皆さんの御理解をいただけるのかということについて話をしていくことも行政の役割。高度成長期の時のように都市が拡大していくときには、行政は規制をかけてきたが、今の時代はいかに民間が動きやすいようにアシストできるかが行政の役目である。
13-4	■そのうち我々も足の確保が課題となるが、年金生活でタクシーということになるとそれもできないと考えている。	●回答なし。
14	■避難所について かなや会館を避難所として何を備蓄したらいいか。	●そういったご相談にのることはできるが、第一次避難所としての指定は39か所となっているのでそちらを優先させていただく。使っていただくことは可能であるので、備蓄の内容については自主防と危機管理課との連携でお願いしたい。
15	■地域の催事について 少子高齢化に伴い、お祭りの開催が町内単位では厳しくなっている。	●催事だけでなく、川ざらいも出たくても高齢で出られない。やりたくてもできない人もいる。(夜勤、休日出勤など) それぞれの地域の課題が深刻になっている。まちづくりということが小さな単位では人がもたなくなってきた。人を育てていくことが大変な時代にあって、小学校区の単位など、もう少し大きな範囲でお互い(町内)が手伝い合いっこしないと、小さな一つ一つが維持できなくなってきた

		る。川がないなど川ざらいをやらなくても、地域の美化活動をお願いしたい。そこに子どもたちを巻き込んでもらいたい。
16	<p>■空港新駅について リニアの交換条件として提示すれば良い。</p>	<p>●知事は熱い思いを持って空港と新幹線を繋げたいと思っている。 JR 東海は話にも応じない状況である。静岡、掛川間に新幹線駅を造れば新幹線でなくなるというのが JR の言い分。引込み線の技術的な問題もあるのかもしれない。 知事は東京オリンピック（パラリンピック）、防災上の観点から話しているが、2020 年に間に合わせるのは難しいと思う。リニアができればのぞみの本数が減ることによって、こだま、ひかりを増やすことが可能と JR は言っているが、まだその話まではたどりつけていない。 知事に、防災とオリンピックだけではなく、地域振興、新駅ができたらかようなふうに地域が変わるといったことを語ってほしい。 新駅は地元負担金もありタダで造ってもらえるものではない。地域振興の話もないと、地域の皆さんの御理解は難しい。そのような話は知事にもしていくが、今のところ知事は一生懸命だが JR が応じていない状況。</p>
17	<p>■金谷駅の南口について 金谷駅が島田駅のように駅の南口ができると聞いたことがあるが。 (地下道が橋上駅になる。)</p>	<p>●そのかわりに、エレベータの設置、車いすの方も利用できるトイレの設置を行った。</p>
18	<p>■災害時の駅の活用について 災害時になぜ、JR は避難者のために駅を利用させないのか。</p>	<p>●乗降客の避難場所としては使うと思うが、JR の利用者の避難所として備蓄もしているし避難体制もとっていると思う。大規模災害の時には、列車は最寄駅に停まるということになっている。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

